

京都大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科で行われている疫学研究

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成 26 年 12 月)にしたがい、京都大学医学部附属病院肝胆膵・移植外科で行っている疫学研究の情報を公開しています。

疫学研究とは、ひとの病気の原因・病態の解明および予防、治療の方法の確立を目的とする研究です。当科では、過去の診療記録より得られた情報を利用して、下記の疫学研究を行っています。下記の疫学研究は、医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得て実施するものです。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんに新たなご負担をおかけするわけではありません。また、研究結果は学会や学術雑誌に発表されることがありますが、患者さんのプライバシーは十分に尊重され、個人情報(お名前など)が外部に公表されることはありません。

もし、下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記メールアドレスもしくは電話番号にご連絡いただければ、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合、診療上不利益を被ることはありません。また、下記研究に関して詳しい説明を希望される場合、下記メールアドレスにお問合せいただくか、担当医にお尋ねください(医の倫理委員会申請・審査中のものを含みます。患者さんから個別に書面による説明・承諾を得て行っている研究は含みません)。希望があれば研究の実施に支障の無い範囲で計画書等を閲覧することもできます。

【疫学研究内容】肝胆膵外科手術におけるインドシアニングリーン蛍光法の意義の検討を目的とした術前評価・手術・周術期管理に関する観察研究。

【対象】1990年1月1日から2020年5月31日までに当院で肝胆膵疾患について診断および治療のため診療を受けられた全ての患者さんおよび生体肝移植ドナーを対象とします。

【研究実施期間】倫理審査承認日から4年間です。

【目的】肝胆膵外科手術においてインドシアニンググリーン蛍光法を用いた手術と用いなかった手術で、術前評価に加え周術期と長期予後を後方視的に比較検討し術後成績に關与する新たな因子を明らかにすることを目的とします。

【協力内容】診断、治療のために行ったCTやMRI、PET-CTなど検査画像、血液・生化学検査などの血液検査、病理組織検査、手術記録などの診療録に記載されている資料をご提供いただきます。本研究は当院の診療録を利用する研究ですので、新たな負担は一切ありません。

【研究資金・利益相反】この研究は寄付金により実施します。利益相反については、京都大学利益相反ポリシー、京都大学利益相反マネジメント規約に従い、京都大学臨床研究利益相反審査委員会において適切に審査・管理しています。

【研究責任者】京都大学 肝胆膵・移植外科 瀬尾 智

【当科の疫学研究に関する問合せ先】

・京都大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科 瀬尾 智

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

rutosa@kuhp.kyoto-u.ac.jp TEL: 075-751-3242

・京都大学医学部附属病院 相談支援センター

ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp TEL: 075-751-4748

作成日 : 2020年6月27日 version 1